

令和5年一番茶萌芽宣言

—令和5年一番茶萌芽と防霜対策の徹底について—

令和5年3月28日
京都府農林水産技術センター
農林センター茶業研究所

1 本年の一番茶萌芽宣言

3月の平均気温が平年より高く推移し、芽の生育が早いことから本年の一番茶萌芽宣言は、平年より7日早い3月28日、昭和48年以降、最も早い宣言となりました。

◆萌芽宣言：前年、平年との比較

令和5年	令和4年	前5か年平均	平年
3月28日	4月6日	4月2日	4月4日

平年：平成6年から令和4年までの29年間の平均

◆本年の気象推移（図2参照）

【平均気温】

平年と比べ冷え込む日や暖かい日があったが、月値としては1月から2月まで平年並に推移した。3月は平年と比べ高く推移した（3月20日まで）。

平年差 1月：-0.22℃、2月：-0.04℃、3月：+2.1℃（3月は20日までの値の比較）

【降水量】

平年と比べ1月から3月にかけて少なかった。

平年比 1月：48%、2月：35%、3月：46%

★お茶の『萌芽』

春になると、包葉の中から芽が伸びてきます。芽の先端が包葉の約2倍に達した状態（図1参照）を『萌芽』としています。

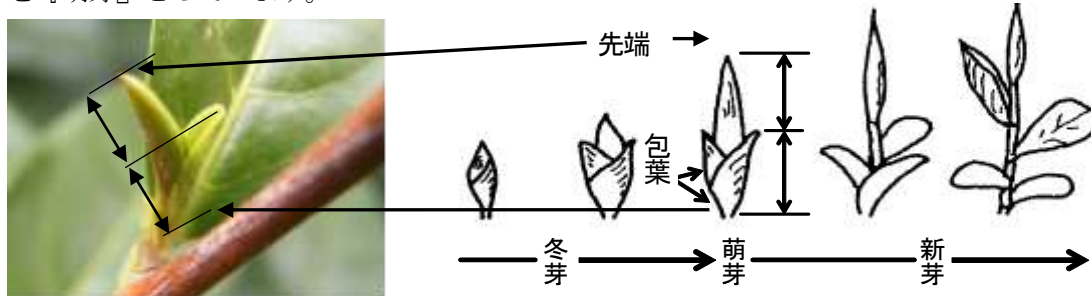


図1. 左：『萌芽』したお茶の芽 右：冬から春にかけての茶新芽の生長

★「萌芽期」と萌芽宣言

萌芽した芽の割合が70%に達する時期を「萌芽期」と言います。萌芽宣言は、当所作況園の萌芽調査結果から「萌芽期」を予測して、日付を決定しています。

2 防霜対策の徹底

特に移動性高気圧に覆われる日は、夜間の冷え込みが厳しくなり晩霜に見舞われる危険性が高くなります。毎日の気象情報を確認し、霜注意報や予想最低気温に注意して防霜対策を徹底してください。

◆主な対策

- (1) **防霜ファン**：使用前に点検を済ませ、最大限の効果を得るために設定温度5℃を目安に稼働
- (2) **棚被覆**：翌朝の降霜が予想されている日の夕方に行う
- (3) **スプリンクラー散水**：使用前に点検を済ませ、摘採面温度2℃を目安に稼働

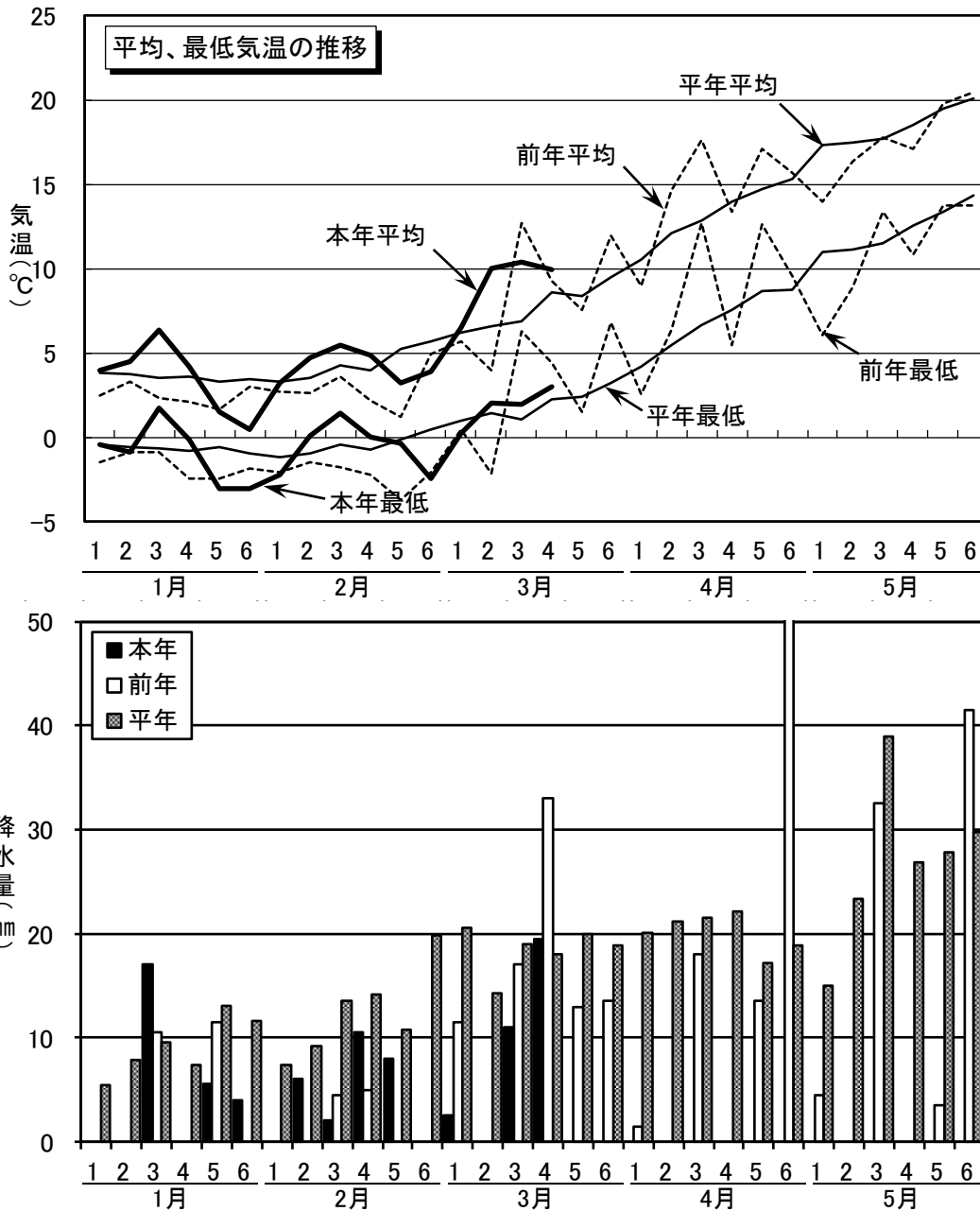


図2 令和5年冬季～春季の気象推移(平均気温、最低気温、降水量)

- 1) 平年値は、平成6年から令和4年までの平均値(29年間)、自動気象観測装置のデータから平年値を算出
- 2) 観測場所は、農林センター茶業研究所(宇治市白川中ノ菌1番地)

表 1月～3月の平均気温及び降水量並びに萌芽宣言日及び摘採日

期間	平均気温(°C)			降水量(mm)			萌芽宣言 (月日)	摘採日 (月日)	生育日数 (日)
	1月	2月	3月	1月	2月	3月			
2023年	3.4	4.2	9.2	27	27	33	3月28日	-	-
2022年	2.5	2.7	8.6	22	10	88	4月6日	5月4日	28
平年	3.5	4.2	7.7	51	64	103	4月4日	5月6日	32
前5か年	3.5	4.3	8.8	31	29	84	4月2日	5月4日	32
萌芽宣言最も早い2002年	4.7	4.8	9.0	63	24	113	3月29日	4月28日	30
萌芽宣言最も遅い1996年	3.4	2.3	6.3	50	42	179	4月11日	5月16日	35
// 2005年	4.0	4.5	7.3	43	71	98	4月11日	5月7日	26

- 1) 京都府茶業研究所調べ
- 2) 平年は1994年から2022年の平均値
- 3) 萌芽宣言の早さは1994年以降の記録
- 4) 摘採日は京都府茶業研究所内作況園自然仕立て(「やぶきた」手摘み)の摘採日
- 5) 生育日数は萌芽宣言翌日から摘採日までの日数
- 6) 2023年3月の気象データは3月1日～20日の平均値又は積算値